

青い鳥のお仕事をのぞいてみよう！

～療育センター・臨床心理士／公認心理師の場合～

<何をする人？>

発達検査：お子さんの年齢や保護者の方の主訴に合わせて、どの検査を実施するか決めます。検査の選定、実施、報告書の作成をします。

個別療育：お子さんの発達特性をふまえ、園・学校で必要な支援を家庭でも活かせるような形で個別に行います。

地域支援：園や学校などの関係機関を訪問し、お子さんの状態像や発達特性の共有、強みを生かした支援について考えます。

保護者との面接：検査結果や取り組みの様子から、お子さんの状態像や発達特性をお伝えします。また、家庭や学校、園での支援を一緒に考えます。

保護者向け勉強会：お子さんとのかかわり方や発達特性、就学についてなど、様々なテーマで勉強会を企画、実施しています。

<支援の対象はどんな人？>

発達の遅れや偏りがあるお子さんや、お子さんの発達や生活面に困り感を抱える保護者が対象です。

<どんな支援をするのか教えて！>

発達特性に基づいた個別的な視点を大切に、日常生活でも活かせるような支援を考えています。また、お子さんの長所や強みを生かし、お子さんと保護者の方が自信や自己肯定感を持てることを大事にしています。

<ある療育センターでの一日の流れ>

08:30【出勤】

ロッカールームに荷物を置いてスタッフルームに向かいます。コーヒーを飲みながら、一日の流れを頭の中でシミュレーションします。

08:45【始業 心理内打ち合わせ】

心理スタッフで打ち合わせをします。一日のそれぞれの予定、全体の予定を確認します。

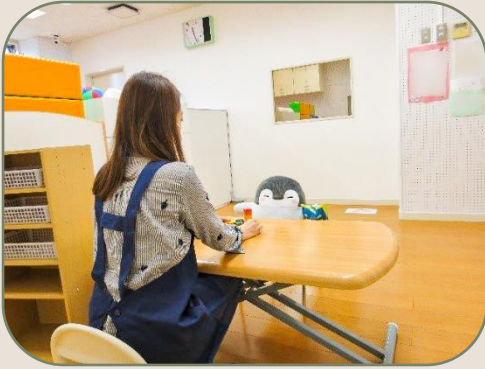
09:00【ソーシャルワーカー（SW）との引継ぎ・検査準備】

SW から発達検査を受けるお子さんについての引継ぎを受けます。所属する園やご家庭での様子など、検査前の情報共有でお子さんの様子をイメージします。部屋のセッティングや検査道具の準備を行い、初めてのお子さんとお会いする準備をします。

今日は4歳の男の子で、「言葉の遅れが気になる」という主訴の保護者の方とお会いするので、知能検査を行います。

知能検査や発達検査、保護者からの聞き取りで行う検査など、いくつかの検査から選択します。
検査はドクターから指示が出ることもあります。（4年目）

09:30【発達検査と検査報告書作成】



発達検査を実施します。1対1の設定された個別場面で、お子さんがどのように課題に取り組むか、心理士からの関わりに対してどう応じるかなど、一期一会の出会いを大切にしながら検査を行います。未就学児のお子さんの検査は保護者同席で行っています。

今日は4歳児のお子さんだったので、保護者から検査後に感想や普段の様子をうかがいました。現段階での知的発達についてや、お子さんの発達特性に合わせてどのような支援があると良いかなど、報告書を作成します。

初めて会うお子さんと保護者の方があまり緊張しすぎず検査に臨めるように、リラックスできる雰囲気を心がけています。
(6年目)

結果だけでなく、お子さんの強みを生かせるような報告書を心がけています。(4年目)

11:00【集団療育の見学】

翌週に集団療育を利用しているお子さんの検査予約が入っているので、集団参加の様子、先生とのやり取りの様子などを見て、翌週の検査に臨みます。

検査でどんな風に取り組むかな？とイメージしながらいきいきと集団に参加するお子さんを見てほっこりします。(20年目)

検査や個別療育のような1対1の関わりだけでなく、集団療育でのお子さんの様子を知ることがアセスメントの大切な要素です。(9年目)

12:00【休憩時間】



普段はスタッフルームで、職員そろって和気あいあいとお弁当。

スタッフルームには、言語聴覚士・作業療法士・理学療法士がいて、世代も様々なので、話題が広く雑談が楽しいです。

たまには、おしゃれなランチを食べに行くこともあります。(10年目)

13:00【学齢期の保護者との面接】

今日は小学校 3 年生のお子さんをお持ちの保護者から相談がありました。お友達関係のことをどのようにサポートするかについて、一緒に考えました。

学齢期の方との相談は、学校のこと・家庭のこと・学習のことなど多岐にわたります。療育センターの面接では早期の解決には至らないこともありますが、保護者と手がかりを見つけていく作業が大事だと思っています。(15年目)

14:00【個別療育】



今日は年長のお子さんの個別療育です。定期的にお会いしている方で、ゲームのルール理解や日常生活の流れなど、お子さんにとってやりやすい方法を保護者と模索しています。

今回は写真のように「視覚化」することで理解しやすくなり、理解するとスムーズに取り組めたようです。個別療育の様子を参考にして、ご家庭でも出来そうな工夫を一緒に考えます。



小さいお子さんの個別療育では、着替えや食事、トイレトレーニングの話なども含めた相談を心理で受けることもあります。(6年目)

個別療育は保護者と心理士が協働し、教材や遊びを通して、お子さんについての理解を深めていきたいと思っています。(6年目)



ゲームのルールを説明しています。系統的な視覚化でルールが分かりやすく伝わります。

絵と実物のマッチング課題ですが、カードのめくり順で行っていきます。こういった教材は、空いている時間に作成します。

考えた課題や関わりでお子さんが喜んでくれる姿を見るととても嬉しいです。
(20年目)



車の絵をマッチングする課題です。今日はウォーミングアップに使用しました。

15:00【打ち合わせ】



個別療育を担当しているお子さんが診療を受けたので、主治医の見解を聞きます。姿勢維持の苦戦、不器用さでも困り感を持っているお子さんでしたので、今後は作業療法士も関わっていく方向で話が進みました。

心理だけでなく、多職種でお子さんへのサポートを考えていけることは、心理士としても勉強になります。療育センターの醍醐味であるとも思います。(15年目)

18:15【終業】

今日は検査の報告書が終わってなかったので、1時間ほど残業をして報告書を書きました。

記録や机の整理をしてタイムレコーダーにカードをかざして退勤です。お疲れ様でした！

定時に帰宅して家で夕飯を作る日も多いですが、書類づくり、記録などのために残業をすることもあります。(20年目)

最近はなかなか行けていませんが、アクセスの良い横浜で友人たちと集まることもあります。金曜日にみんなで飲むビールが恋しいです…。(9年目)